

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／内外／債券
信託期間	2020年1月10日まで（2016年3月29日設定）
運用方針	世界各国の金融機関が発行する劣後債および優先証券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保をめざします。
主要運用対象	世界各国の金融機関が発行する劣後債と優先証券等
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各国の金融機関が発行する劣後債と優先証券等を主要投資対象とし、主として利子収益の確保を目指します。 ※加えて事業会社の発行する劣後債と優先証券も投資対象としています。 ・投資を行う劣後債と優先証券等は、原則として、取得時において当ファンドの信託期間終了前に満期償還日または繰上償還の可能日が到来するものとします。 ・外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合は、制限を設けません。
分配方針	毎年3月10日および9月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配対象額は、元本超過額または経費等控除後の配当等収益のいずれか多い額とします。基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。）

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

国際金融機関債ファンド （為替ヘッジあり）プラス2016-03

第4期（決算日：2018年3月12日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「国際金融機関債ファンド（為替ヘッジあり）プラス2016-03」は、去る3月12日に第4期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
 フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額				受利益 回率	債券 組入比	債券 先物比	元残 存本率
		税金 分配	み 金 騰 落	中 額 騰 落	中 率 騰 落				
(設定日)	円	円	円	円	%	%	%	%	
2016年3月29日	10,000	—	—	—	—	—	—	100.0	
1期(2016年9月12日)	10,293	60	353	3.5	7.7	97.1	—	92.3	
2期(2017年3月10日)	10,300	60	67	0.7	4.4	96.6	—	69.1	
3期(2017年9月11日)	10,499	60	259	2.5	4.7	95.5	—	42.7	
4期(2018年3月12日)	10,424	60	△15	△0.1	3.4	93.6	—	36.2	

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準価額	騰落率		債券 組入比	債券 先物比	債券 先物比
		騰落	率			
(期首) 2017年9月11日	円 10,499	—	%	% 95.5	—	% —
9月末	10,510	0.1	0.1	95.7	—	—
10月末	10,532	0.3	0.3	96.1	—	—
11月末	10,528	0.3	0.3	97.2	—	—
12月末	10,544	0.4	0.4	96.3	—	—
2018年1月末	10,527	0.3	0.3	95.7	—	—
2月末	10,474	△0.2	△0.2	93.1	—	—
(期末) 2018年3月12日	10,484	△0.1	△0.1	93.6	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

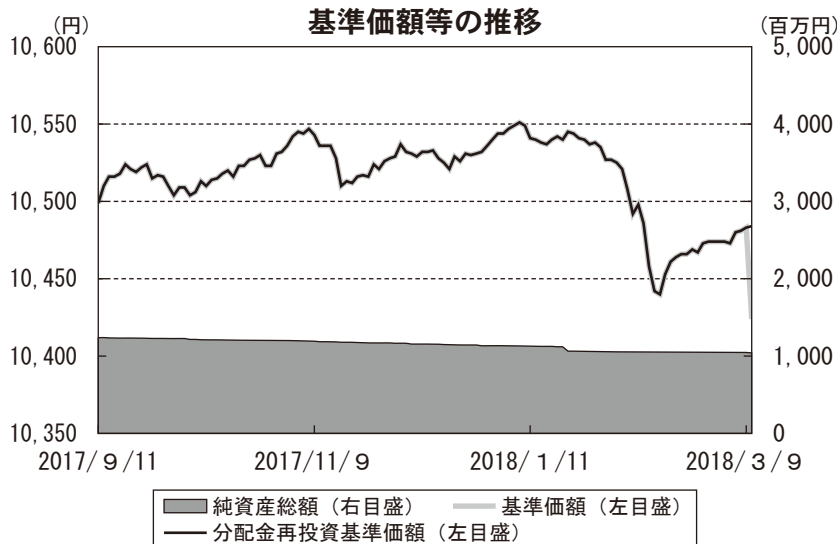
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

（第4期：2017/9/12～2018/3/12）

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ0.1%（分配金再投資ベース）の下落となりました。



- ・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・単体型投資信託は実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

上昇要因	保有銘柄の利息収入を享受したことなどが基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	期末にかけて米金利上昇が進んだことなどが基準価額の下落要因となりました。

投資環境について

（第4期：2017/9/12～2018/3/12）

◎社債市況

- ・欧米の金融機関の劣後債・優先証券市場はほぼ変わらずとなった一方、当期前半にスプレッド（国債との利回り差）が大きく縮小した欧米の事業会社の劣後債・優先証券市場は上昇しました。
- ・北朝鮮をめぐる地政学リスクへの緊張感が後退したことや、米法人税引き下げ期待の高まりなどからスプレッドは縮小して始まりました。
- ・2017年10月に入ると、カタルーニャ自治州によるスペインからの独立問題が嫌気されたことなどからスプレッドは小幅に拡大したものの、米国議会上院で2018会計年度の財政予算決議が可決されたことによる法人税引き下げへの期待感などから、スプレッドは縮小しました。
- ・11月以降は、これまでのスプレッド縮小トレンドにやや一服感が見られる中、スプレッドは小動きながらも、米国が法人税引き下げの実現へ大きく前進したことなどを背景に堅調に推移しました。
- ・12月に入ると、海外のクリスマス休暇を控え、市場参加者が少なくなったことなどから動意の薄い展開となりました。
- ・その後、2018年2月に入ると、米金利の上昇や、株式市場での大幅な調整により投資家心理が急速に悪化したことから、幅広い銘柄でスプレッドが拡大しました。また、英大手保険会社のプルデンシャルが永久劣後債のコールを見送ったものの、コールスキップ後のクーポン水準が変わらない点などから当該証券価格、市場全体への影響は軽微となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

- ・当ファンドは、世界各国の金融機関が発行する劣後債と優先証券等を主要投資対象とします。加えて、事業会社の発行する劣後債と優先証券等も投資対象とします。
- ・取得時において当ファンドの信託期間終了前に満期償還日または繰上償還*の可能日が到来する劣後債と優先証券等を中心に投資しました。
*繰上償還とは、早期償還や買入消却等による償還をいいます。劣後債と優先証券に繰上償還条項が付与されている場合、繰上償還時には額面で償還されます。
- ・種別組入比率は、劣後債と優先証券等が高位となりました。
- ・銘柄選定においては、過去のコール実績、コールに対する経営スタンス、経済合理性などを総合的に勘案し、組み入れの可否および組入比率を検討・調整しました。
- ・ユーロ、英ポンド、米ドルの外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかりました。為替ヘッジを行ったため、為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。
- ・前記の運用を行った結果、保有銘柄の利息収入を得られたことなどがプラス寄与したものの、期末にかけて米金利上昇が進んだことなどから、基準価額（分配金再投資ベース）はほぼ変わらずとなりました。

（ご参考）

ポートフォリオの特性値

	期首 (2017年9月11日)	期末 (2018年3月12日)
平均終利	1.7%	2.0%
平均直利	6.9%	7.1%
平均残存年数	1.7年	1.2年
平均格付	BBB	BBB

格付別組入比率

格付種類	期首 (2017年9月11日) 比率	期末 (2018年3月12日) 比率
AAA	—	—
AA	—	—
A	14.5%	15.6%
BBB	73.6%	70.9%
BB	7.4%	7.2%
B	—	—

- ・平均終利（複利最終利回り）とは、償還日までの利息または配当収入とその再投資収益および償還差損益も考慮した利回り（年率）をいいます。なお、繰上償還条項が定められている証券については、原則として次回の繰上償還の可能日を使用して計算していますが、一部の銘柄については三菱UFJ国際投信が想定する繰上償還日を使用して計算している場合があります。
- ・平均直利（直接利回り）とは、利息または配当収入部分にのみ着目した利回りで、証券価格に対する利息または配当収入の割合（年率）をいいます。
- ・平均残存年数は、繰上償還条項が定められている証券については、原則として次回の繰上償還の可能日に償還されるものとして計算していますが、一部の銘柄については三菱UFJ国際投信が想定する繰上償還日を使用して計算している場合があります。
- ・平均格付とは、基準日時点において当ファンドが保有している証券の信用格付を純資産総額に対する当該証券の組入比率で加重平均したものであり、当ファンドに係る信用格付ではありません。
- ・比率とは、当ファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・格付は、S & P、Moody's、Fitchの格付のうち、上位の格付をS & Pの表示方法で表記しています。（出所：Bloomberg）

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配金】

決算期	1万口当たり分配金（税込み）
第4期	60円

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

◎運用環境の見通し

- ・G-SIFIs[※]をはじめとする欧米の大手金融機関の自己資本比率は改善傾向にあり、手元流動性の厚みが増すなど安定性が高まっていることなどから、良好なファンダメンタルズは今後も維持され、劣後債・優先証券の利回り低下に寄与すると見込んでいます。また、投資家心理の悪化や市場流動性の観点から短期的に値動きが不安定となる局面も想定されますが、バーゼルⅡの下で発行されてきた劣後債および優先証券については、新規の起債供給のない閉ざされた市場で、繰上償還等により市場規模は縮小の方向にあることに変わりなく、スプレッドは安定的に推移するとみています。

※Global Systemically Important Financial Institutionsの略で、各国の金融監督当局等で構成され国際金融に関する措置・規制・監督等の役割を担う金融安定理事会（FSB）によって選定されるグローバルな金融システムの維持・安定に欠かせない重要な金融機関のことをいいます。

◎今後の運用方針

- ・引き続き、世界各国の金融機関および事業会社が発行する劣後債と優先証券等への投資を維持する方針です。
- ・取得時において当ファンドの信託期間終了前に満期償還日または繰上償還の可能日が到来する証券を中心に投資する方針です。
- ・外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかる方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2017年9月12日～2018年3月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投 信 会 社)	(23)	(0.216)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(23)	(0.216)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.016)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.018	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.015)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	49	0.467	
期中の平均基準価額は、10,519円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年9月12日～2018年3月12日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外	アメリカ	社債券	千アメリカドル —	千アメリカドル 550
	ユーロ		千ユーロ	千ユーロ
国	フランス	社債券	—	530
	イギリス	社債券	千イギリスポンド —	千イギリスポンド 426

(注) 金額は受渡代金。（経過利子分は含まれておりません。）
 (注) 社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2017年9月12日～2018年3月12日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
為替先物取引	4,602	954	20.7	4,364	900	20.6
為替直物取引	—	—	—	242	56	23.1

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2018年3月12日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
アメリカ	千アメリカドル 2,600	千アメリカドル 2,784	千円 297,849	% 28.6	% —	% 28.6	% —	% —
ユーロ	千ユーロ	千ユーロ						
イタリア	500	525	69,260	6.7	—	6.7	—	—
フランス	1,000	1,113	146,629	14.1	7.2	14.1	—	—
イギリス	千イギリスポンド 2,900	千イギリスポンド 3,110	461,083	44.3	—	44.3	—	—
合 計	—	—	974,822	93.6	7.2	93.6	—	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当 期 末					償還年月日
	利 率	額面金額	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
アメリカ	%	千アメリカドル	千アメリカドル	千円		
社債券	5.5	200	203	21,718	2049/7/29	
	12.5	400	454	48,581	2049/8/29	
	8.375	300	323	34,571	2049/10/29	
	11.0	700	767	82,108	2049/12/29	
	6.875	600	628	67,218	2049/7/29	
	7.875	200	206	22,106	2049/11/8	
	4.125	200	201	21,544	2023/11/21	
小 計				297,849		
ユーロ		千ユーロ	千ユーロ			
イタリア 社債券	6.5	500	525	69,260	2074/1/10	
フランス 社債券	12.5	200	237	31,307	2049/9/29	
	9.375	500	566	74,549	2049/9/29	
	3.0	300	309	40,772	2049/6/29	
小 計				215,889		
イギリス		千イギリスポンド	千イギリスポンド			
社債券	6.772	400	427	63,406	2049/10/29	
	14.0	450	515	76,458	2049/11/29	
	8.125	300	327	48,579	2049/10/29	
	11.375	200	223	33,123	2039/5/29	
	6.875	400	429	63,670	2049/11/29	
	6.461	400	412	61,218	2049/11/29	
	5.875	300	311	46,130	2049/3/29	
	5.62	450	462	68,495	2049/9/29	
小 計				461,083		
合 計				974,822		

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 上記のうち、償還年月日が2049年とあるのは、永久債（繰上償還条項付き）です。

○投資信託財産の構成

(2018年3月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 974,822	% 92.4
コール・ローン等、その他	80,333	7.6
投資信託財産総額	1,055,155	100.0

(注) 期末における外貨建純資産（1,003,031千円）の投資信託財産総額（1,055,155千円）に対する比率は95.1%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1アメリカドル=106.95円	1ユーロ=131.69円	1イギリスポンド=148.23円
-----------------	--------------	------------------

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2018年3月12日現在）

項目	当期末
	円
(A) 資産	2,033,669,862
コール・ローン等	36,734,031
公社債(評価額)	974,822,681
未収入金	993,433,801
未収利息	28,208,191
その他未収収益	471,158
(B) 負債	992,327,100
未払金	978,514,400
未払収益分配金	5,993,680
未払解約金	3,078,725
未払信託報酬	4,718,055
未払利息	89
その他未払費用	22,151
(C) 純資産総額(A-B)	1,041,342,762
元本	998,946,814
次期繰越損益金	42,395,948
(D) 受益権総口数	998,946,814口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,424円

○損益の状況（2017年9月12日～2018年3月12日）

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	40,513,655
受取利息	40,048,353
その他収益金	471,158
支払利息	△ 5,856
(B) 有価証券売買損益	△ 5,963,250
売買益	76,173,819
売買損	△82,137,069
(C) 有価証券評価差損益	△31,036,736
(D) 信託報酬等	△ 5,321,861
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△ 1,808,192
(F) 前期繰越損益金	58,814,484
(G) 解約差損益金	△ 8,616,664
(H) 計(E+F+G)	48,389,628
(I) 収益分配金	△ 5,993,680
次期繰越損益金(H+I)	42,395,948

<注記事項>

- ①設定年月日 2016年3月29日
 設定元本額 2,755,894,226円
 期首元本額 1,179,441,297円
 元本残存率 36.2%

また、1口当たり純資産額は、期末1.0424円です。

- ②計算期間末における元本超過額48,389,628円と費用控除後の配当等収益35,191,794円のうち、多い金額48,389,628円を分配対象金額として5,993,680円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

(注) (D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	60円
-----------------	-----

◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆課税上の取り扱い

・個人受益者が支払いを受ける収益分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

【お知らせ】

①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。

（変更前（旧）<http://www.am.mufg.jp/> → 変更後（新）<https://www.am.mufg.jp/>）

（2018年1月1日）

②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が附加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。